

獨國總統幕僚全權公使「ワルター・ヘーベル」外
二十二名叙勲、件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十七年九月二十六日

内閣總理大臣東條英機

内閣

賞勳局第五八五號

外電

九月二十六日

昭和十八年七月七日
昭和十八年七月七日
昭和十八年七月七日
昭和十八年七月七日

7.9.

165

昭和十七年九月廿五日

内閣書記官長

賞勳局

賞勳局

内閣總理大臣

山本

賞勳局總裁



獨國總統幕僚全權公使「ワルター、ヘーベル」外二十二名ハ孰モ日獨兩國ノ親善増進ニ努メ來リタルガ殊ニ日獨伊三國條約締結ニ關シテハ或ハ進ンデ之ガ成立ノ促進ニ當リ或ハ克ク我方關係官ト連絡シ我眞意ヲ總統又ハ外務大臣ニ傳ヘ事態ノ紛糾ヲ防ギ或ハ同條約ノ起草ニ當ル等其成立ニ寄與スル所大ナルモノアリ尙右ノ内獨國空軍總司令官兼航空大臣國家元帥勳一等「ヘルマン、ゲーリング」外八名ハ右ノ外我國陸海軍軍事觀察團ノ同國派遣ニ際シ同國ハ全力ヲ舉ゲテ作戰中ナリシニモ拘ハラズ戰場並ニ國內視察其ノ他空軍ノ各般ニ亘ル研究調査事項ニ於テ便宜ヲ供與シ又頗ル廣範圍ニ亘リ視察ヲ許容シ其任務ヲ達成セシメ我國軍ニ寄與スル等其功績顯著ナリトス仍テ此際外務大臣上奏各頭書ノ通敍勳並勳章加授被仰出可然哉此段允裁ヲ仰ダ

賞勳局

めくれず

裏面白紙

獨國總統幕僚全權公使「ワルター・ヘーベル」外十三名儀日獨伊
三國條約締結ニ關シ別記ノ通功績有之候ニ付テハ此際右功勞ヲ御
表彰被遊頭書ノ通夫々敘勳被仰出候様仕度此段謹テ奏ス

昭和十七年九月二十三日

外務大臣 谷

正



外務省

勳二等瑞寶章

獨國總統幕僚全權公使

ワルター・ヘーベル

右者千九百二十三年「ヒットラー」總統ニ從ヒテ事ヲ起シ共ニ獄ニ投セラレタルカ出獄後蘭領印度ニ渡航シ千九百三十五年同總統ノ命ニ依リ本邦經由歸國シタルモノニシテ爾來總統ノ側近ニ在リテ權機ニ參畫シ傍ラ獨國外務省主腦部トノ聯絡ニ任ス
同人ハ本邦ニ對スル理解極メテ深ク幕僚部ニ在リテ常ニ「リッベントロップ」外務大臣トノ聯絡ニ當リ居レル關係上防共協定締結以後ニ於ケル日獨兩國ノ緊密化ニ關シ其圓滿ナル人格及同人ノ有スル豊富ナル極東智識ハ「ヒットラー」總統及「リッベントロップ」

「外務大臣ヲ動かスニ足り以テ『ヒトラー』總統ノ對日接近
外交實現ノ雰囲気ヲ醸成スルニ與テ力アリ
元來總統ノ周圍ニハ經濟關係者ニシテ支那ヲ重要視スルモノ無キ
ニ非サリシニ拘ハラス能ク是等ヲ制肘シ大局ヲ有利ニ誘導シタル
ハ同人ノ努力ニ負フ所歟カラス而シテ日獨伊三國條約締結ニ關シ
テハ同人ハ衷心之ニ贊意ヲ表シ交渉中幾多ノ紆餘曲折アリタルニ
際シ日本ノ眞意ヲ總統ニ説明シテ事態ノ紛糾ヲ防キ同條約ノ成立
上不尠寄與シタルモノニシテ其功績顯著ナリ

勳三等旭日中綬章

獨國外務大臣私秘書長（大使館參事官級）

ルードルフ・リクス

右者夙ニ日本ニ對シ親昵ノ念ヲ抱懷シ其中學時代、恰モ日露戰役
中ニシテ當時其學友等カ概ネ親露的ナリシ間ニ在リテ同人ハ我軍
カ敢然暴露ヲ膺懲セルヲ見、感奮措ク能ハス一書ヲ出征中ノ奧大
將ニ呈シテ其眞情ヲ吐露シタルカ同大將ヨリ鄭重ナル謝狀ヲ受領
スルヤ深ク之ニ感激シ今尙右書狀ヲ秘藏セリト云フニ依リテ見ル
モ同人ノ我國ニ對スル至誠ノ一斑ヲ推想スルニ足ルヘシ
同人ハ元來新聞記者ナリシカ「リッペントロップ」外務大臣トハ
中學以來ノ親友ニシテ同外務大臣カ「ヒットラー」總統ノ外交顧

問トナリタル當時其拔擢ニ依リ現職ニ就任シタルモノニシテ防共
協定及三國條約締結交渉ヲ通シ同外務大臣ニ對シ日獨關係ノ強化
ヲ進言シ以テ同外務大臣ノ親日外交ヲ助成シタル有力ナル一人ナ
リ

又同人ハ前記ノ如キ親日家ナル關係上平素在獨帝國大使館ニ對シ
諸般ノ便宜ヲ供與シ同大使館カ各種ノ交渉案件ニ關シ同國外務省
ヲ通シ折衝ヲナスニ際シ容易ニ進捗ヲ見サル場合ニアリテモ同人
ヲ通シ却テ局面ノ展開ヲ見ルカ如キコト屢々アリテ諸交渉上我方
ノ裨益スル所鮮少ニアラス其功績顯著ナリトス

獨國外務大臣外交顧問（大使參事官級）

勳三等旭日中綬章

エルンスト・レンマー

右者從來新聞記者トシテ「アンテパンダンス、ベルジュ」（白國）、「ベスターロイド」（ハンガリー）、「ノイエツェーリヒャー、ツァイツング」（瑞西）等主トシテ外國主要新聞ニ寄稿シ外交通トシテ知ラレ其極メテ豊富ナル外交知識ヲ以テ「リッペントロップ」外務大臣ニ對シ常ニ適切ナル意見ヲ具申シ同外務大臣ノ外交政策決定上重要視セラル者ノ一人ナリ
同人ハ「リクス」私祕書長ノ親友ニシテ「リクス」同様極メテ眞摯ナル親日家ナル力防共協定及三國條約締結交渉當時所カル政策

ノ世界史的意義及歐洲問題、對米問題等ニ及ホス政治經濟上ノ影響等ヲ詳細「リフベントロップ」外務大臣ニ説明シ以テ同外務大臣ノ親日外交決定ニ有力ナル理論的支持ヲ與ヘタリ

同人ハ常ニ在獨帝國大使館ト密接ナル聯絡ヲ保持シ殊ニ前記ノ如ク「リフベントロップ」外務大臣及「リクス」私祕書長ト親交アル關係上同大使館ニ於テ同外務大臣ニ對シ雜音ヲ交フルコトナク通達セント欲スル問題ニ關シテハ同人ヲ通シテ之行フコト極メテ多ク從テ同人ノ彼我意思ノ疏通上及諸案件交渉ノ促進上貢獻セル所多大ナルモノアリ

裏面白紙

獨國外務省國內部長次官補
マルテイン、ルツター

外務省

裏面白紙

黨幹部トノ關係密接ニシテ頗ル重要視セラレ從テ其地位ヲ利用シ
テ防共協定ヲ始メ三國條約締結ノ國內氣運醸成上多大ノ貢獻ヲナ
シ日獨國交増進上ニ致セル功績顯著ナリ

外務省

獨國外務大臣副官部長全權公使

勳二等瑞寶章

男爵

アドルフ・シュテーングラハト・フォン・モイラント

右者「リッペントロップ」外務大臣ノ信任甚タ厚ク「リクス」及「レンマール」ト共ニ同大臣ノ股肱トシテ外務省内ニ隱然タル勢力ヲ有シ殊ニ「シュテーングラハト」ハ熱心ナル親日家ニシテ其誠意アル親日態度ハ「リッペントロップ」外務大臣ヲ動カスニ極メテ決定的ナル地位ニ在リ且平素在獨帝國大使館ト密接ナル聯絡ヲ保チ三國條約交渉其他日獨間各種懸案ニ關スル日本側ノ意見ヲ充分理解シ好意ヲ以テ之カ促進上多大ノ力ヲ致セル等其功績顯著ナリ

めくれず

裏面白紙

元獨國外務大臣祕書官長
現在本邦獨國大使館參事官全權公使

勳二等瑞寶章

勳三等（瑞）ドクトル、エーリッヒ、コルト

右者在英獨國大使館一等書記官トシテ日獨防共協定締結ニ關スル
功ニ依リ昭和十二年十一月九日勳三等瑞寶章ヲ下賜セラレタルカ
「リッベントロップ」ノ外務大臣就任ト共ニ外務大臣祕書官長ト
ナリ其後同大臣ノ最モ重要視スル在本邦獨國大使館強化ノ爲大使
館參事官トシテ來任シタルモノナリ而シテ同人ハ外務大臣祕書官
長在任中獨國外交ノ樞機ニ參與シ對日國交増進上特ニ力ヲ致シ三
國條約締結交渉ニ際シテハ獨國外務省ニ於ケル事務ノ運用カ同省
事務當局ヨリ外務大臣ニ申達スヘキ案件竝外務大臣ヨリ事務當局

外務省

裏面白紙

ニ對スル下命ハ一應常ニ同人ヲ經由スルヲ要スル關係上同人ノ好
意アル態度ハ直ニ右交渉ニ反映スルト共ニ同外務省ノ親日政策決
定及之カ遂行ニ有效ニ影響シ同條約ノ成立上貢獻セル所多大ナル
モノアリ其功績顯著ナリトス

外務省

獨國外務大臣秘書官長全權公使

勳二等瑞寶章

エミル、フオン、リンテレン

右者特ニ條約關係事務ニ精通シ日獨伊三國條約締結ニ際シテハ「ガウス」條約局長ト協力シ同條約案ノ起草ニ多大ノ努力ヲ傾倒シタリ蓋シ從來條約關係事項ニ關シテハ「ガウス」條約局長主トシテ「リップベントロップ」外務大臣ヲ輔佐シ條約ノ立案ニ參與セルカ「ガウス」ハ近年老齡ニ達シ「リ」外務大臣ノ寧日ナキ活躍ト相伴フ能ハサルコトアル爲「ガウス」分掌事務ノ一部ヲ「リンテレン」ニ於テ擔當スルニ至レルモノナリ
同人ハ熱心ナル日獨提携論者ニシテ且「リ」外務大臣ノ信任厚キ

裏面白紙

ヲ以テ其ノ常ニ進言スル所概ネ容レラレサルナク依テ以テ日獨親
善増進上ニ貢獻セル所鮮少ナラス其ノ功績顯著ナリトス

外務省

獨國外務大臣副官部幹部（一等書記官相當）

勳三等瑞寶章

ベルント、ゴットフリードゼン

右者獨國外務大臣副官部ノ幹部ナルカ外務省内ニ於テモ頗ル將來ヲ矚目セラルル有爲ノ士ニシテ常ニ「リ」外務大臣ノ側近ニ在リテ「シユテイングラハト」ト共ニ外交ノ機務ニ參畫ス

同人ハ我國ニ對シ深甚ノ好意ヲ有シ在獨帝國大使館カ「リ」外務大臣ト交渉ノ必要アル場合ニ於テハ時ノ如何ヲ問ハス毎々誠意ヲ以テ之カ聯絡ニ當リ諸般ノ便宜ヲ供與シ爲ニ帝國大使館ノ裨益スル所鮮少ナラサルモノアリ就中三國條約締結ニ關シテハ同大使館ト「リ」外務大臣トノ間ニ介在シ諸事斡旋ノ勞ヲ執リ同條約ノ圓

滿ナル安結上多大ノ寄與ヲナシ又之カ實施ニ關シテモ同人ノ盡力
ニ負フ所渺カラサル等其ノ功績顯著ナリトス

外務省

東亞 4943

181

裏面白紙

めくれず

裏面白紙

獨國外務省政務局極東課日本係長

勳四等旭日小綬章 ドクトル、カール、オット、ブラウン

右者夙ニ黨外交部ニ在リテ日本關係問題ヲ取扱ヒ旁ラ伯林大學東
洋研究室ニ於テ日本語ヲ學習シ其ノ後千九百三十八年七月本邦ニ
渡來シ滯日二年有餘此間日本事情ヲ探究スルト共ニ益々日本語ヲ
研鑽シ得ル所アリ三國條約締結當時ハ其ノ日本ニ關スル豐富ナル
知識ト堪能ナル日本語トヲ以テ「スターマー」公使ヲ輔ケ同條約
成立上尠カラス寄與シタルカ歸國後現職ニ就任シ三國條約ノ實施
殊ニ之カ關係委員會ノ設置運用ニ熱誠努力シツツアリ
加之同人ハ三國條約ニ關聯シ我外務、陸軍、海軍各官憲ノ訪獨者

外務省

裏面白紙

増加シ是等日本官憲ト獨國內官廳トノ聯絡頗繁トナレルニ當リ
少壯日本専門家トシテ「ルッター」國內部長ト協力シ好意ヲ以テ
我方ニ對シ凡ユル便宜ヲ供與スルニ努ムル等其ノ功績顯著ナリ

外務省

獨國外務省儀典局國賓課長

勳三等瑞寶章

ドクトル、ハンス、シュトラック

右者一九三九年初頭以來現職ニ在リ獨國ヲ訪問スル一切ノ國賓或ハ國賓ニ準スル訪問者ニ關スル要務ハ同人ノ管掌スル所ニシテ日獨伊三國條約締結交渉當初在歐我大公使ノ獨國訪問ニ際シテハ之ニ對シ常ニ多大ノ便宜ヲ供與シ爲ニ同交渉ノ圓滿ナル進捗上貢獻セル所甚大ナルモノアリ

又客年同條約成立當時及其ノ後ノ各國加入ニ際シ帝國大使ノ國內旅行ニ對シ誠意幹旋盡力シ最近ニ於テハ松岡外務大臣ノ訪獨ニ當リ同人ハ其ノ廣汎ナル歡迎準備一切ヲ計畫スルノ衝ニ當リ且之カ

實施上萬遺漏ナキヲ期シ以テ同大臣ノ任務達成上寄與スル所多ク
其ノ功績洵ニ顯著ナリトス

外務省

裏面白紙

185

在本邦獨國大使館一等書記官

勳三等瑞寶章 ドクトル、ハンス、ウルリッヒ、フオン、マルヒターラー

在本邦獨國大使館一等書記官

勳三等瑞寶章 ドクトル、アロイス、ティン

右兩名中「フオン、マルヒターラー」ハ昭和十三年九月又「ティン」ハ昭和十年八月着任シタルモノナルカ日獨伊三國條約締結交渉ニ際シ前者ハ専ラ交渉案件ノ調査ニ當リ晝夜ヲ分タス奮勵シ又後者ハ前者ト同様交渉案件ノ調査ニ鞅掌セル傍我國情ニ精通セル關係上「オット」大使及「スターマー」公使ニ對シ常ニ懇切ナル意見ヲ進言シテ交渉ノ進捗ヲ容易ナラシメタルノミナラス兩名

裏面白紙

共前記大使及公使ノ旨ヲ承ケテ隨時我方關係官ト接觸シテ相互意
思ノ疏通ヲ圖ル等孰レモ本條約成立上ニ貢獻セル所多大ニシテ其
功績顯著ナリトス

外務省

在本邦獨國大使館一等書記官

勳三等瑞寶章 伯爵ラディスラウス、フオン、ミルバッハ、ゲルデルン

右者昭和十年十一月着任シタルモノナルカ日獨伊三國條約締結交渉ニ際シテハ主トシテ交渉案件ノ調査及關係重要文書ノ立案ニ執掌シ直接間接交渉ノ促進上ニ資シ以テ本條約ノ圓滿ナル成立ヲ見ルニ至リタルニ不尠貢獻シタルモノニシテ其功績顯著ナリトス

獨國外交官補

勳五等瑞寶章

ガリンスキ

右者昭和十五年九月初旬「スターマー」公使カ日獨伊三國條約締結ニ關シ特別使命ヲ帶ヒテ來朝スルニ際シ之ニ隨伴シタルモノニシテ爾來終始同公使ヲ輔ケテ本條約締結交渉ニ關スル機務ノ處理ニ當リ以テ同公使ノ任務達成ヲ裨補シ本條約成立上ニ貢獻シタル功績顯著ナリ

裏面白紙

獨國空軍總司令官兼航空大臣國家元帥勳一等「ヘルマン、ゲーリ
ング」外八名儀日獨伊三國條約締結、我陸海軍視察團ノ視察等ニ
關シ別記ノ通功績有之候趣ヲ以テ敘勳ノ儀陸軍大臣及海軍大臣ヨ
リ申立有之候ニ付テハ此際右功勞ヲ御表彰被遊頭書ノ通夫々敘勳
被仰出候様仕度此段謹テ奏ス

昭和十七年九月二十三日

外務大臣 谷

正

之



外務省

獨國空軍總司令官兼航空大臣

旭日桐花大授章 國家元帥勳一等（旭日）ヘルマン・ゲーリング

「元帥ハ獨國空軍總司令官兼航空大臣タルノミナラス四箇年計畫
長官トシテ將又「ヒットラー」ノ指名セル後繼總統トシテ總統
ト併ヒ稱セラルヘキ獨國ノ重鎮タリ而シテ總統ト同シク我帝國
ニ對シテハ極メテ友好的精神ヲ有シ常ニ日獨提携ノ提唱者タリ
過般日獨伊三國條約ノ急速ナル成立ヲ見タルハ獨國指導者ノ適
確機敏ナル措置ニ俟ツコト勿論ナルモ就中元帥カ其地位上ニ於
ケル助力ト平常保持セル對日友好精神ノ發露ニ貢フ所アルニ顧
ル時本條約ノ成立ニ致セル元帥ノ功績ハ極メテ顯著ニシテ偉大

ナルモノト認ム

ニ我山下視察團ノ獨國空軍視察ニ方リテハ戰場並國內視察其他空軍ノ各般ニ亘ル研究調査事項ニ於テ有ラユル便宜ヲ供與シ開放的ニ視察ヲ許容シ視察團ノ任務達成ヲ容易ナラシメ以テ我帝國軍ニ寄與セル功績甚大ナリ

ニ又我海軍軍事視察團ノ訪獨ニ當リテハ獨空軍ノ全力ヲ擧ケテ作戰中ナリシニモ拘ハラズ元帥ハ克ク日獨兩國ノ立場ヲ諒解シテ積極的ニ視察團訪獨ノ實現ヲ圖リ其訪獨後ハ終始理解ト好意トヲ以テ空軍各般ノ研究調査及戰場等ノ視察ヲ開放的ニ許容シ我軍事視察團ノ任務達成上ニ寄與セル功績絶大ナルモノアリ

193

獨國海軍長官

旭日桐花大綬章 海軍元帥勳一等(旭) エリッヒ・レーダー

「右者昭和三年十月以來獨國海軍長官ノ要職ニ在リテ「ヒットラ
ー」總統ノ信賴ヲ受クルコト極メテ厚ク國家ノ樞機ニ參與スル
コト既ニ久シ而シテ帝國ニ對シテハ極メテ友好的精神ヲ有シ夙
ニ日獨提携特ニ兩國海軍ノ親善強化ニ努力シ來リ曩ニ日獨伊三
國條約ノ議起ルヤ日獨兩國ノ第三國關係ニ於ケル海軍ノ地位ニ
顧ミ之カ締結ニ盡瘁シテ急速成立ニ致セル功績特ニ顯著ナルモ
ノアリ

「又我海軍軍事觀察團ノ獨國派遣ニ當リテハ戰時下極メテ困難ナ
ル狀況ナルニモ拘ハラス克ク我方ノ要望ヲ容レ特ニ多數ノ人員

裏面白紙

ト勞力トヲ割キテ視察調査上大ノ便宜ヲ供與シ我視察團ノ任務
達成ヲ容易ナラシメタルハ海軍長官タル同人ノ帝國海軍ニ對スル
特別ノ厚意ニ依ルモノニシテ其功績甚大ナリトス

外務省

獨國陸軍總司令官
陸軍元帥 勳一等旭日大綬章
ワルテル・フォン・ブラウヒッチュ

「元帥ハ獨國陸軍總司令官ニシテ國防軍最高統帥者タル」ヒットラー「總統ニ直屬シ軍政軍令ノ全般ニ亘リ陸軍ヲ統率シ夙ニ日獨兩國ノ提携協力ニ意ヲ致シ直接間接我支那事變遂行上ニモ貢獻スル所大ナリシカ特ニ過般日獨伊三國條約ノ締結ニ當リテハ總統ニ對スル積極的援助ト共ニ部下ノ指導ヲ始メ獨國陸軍總帥トシテノ地位ニ基キ該國首腦部ノ説得誘掖ニ努メ該條約ヲシテ急速成立ニ導キタル功績顯著ナルモノアリ

ニ又我山下視察團ノ獨國陸軍視察ニ方リテハ戰場視察（作戰準備

裏面白紙

地域及占領地一國內視察（軍隊學校及軍需工場等）其他各般ニ
亘ル國防軍事ニ關スル研究等有ラユル便宜ヲ供與シ且開放的ニ
視察ヲ許容シ視察團ノ任務達成ヲ容易ナラシメ以テ我帝國陸軍
ニ寄與セル功績甚大ナリ

外務省

めくれず

裏面白紙

獨國防軍總司令部長官

旭日大綬章

陸軍元帥勳一等(瑞)

ウイルヘルム、カイテル

元帥ハ獨國防軍總司令部長官ニシテ陸海空各軍總司令官ト共ニ「ヒットラー」總統ニ直屬シ該國防軍最高統帥者タル「ヒットラー」總統ノ幕僚長タリ日獨親善ニ關シ夙ニ熱意ヲ有スル防衛局ハ其統率下ニアリ元帥ハ固ヨリ帝國トノ提携協力ニ意ヲ拂ヒ貢獻スル所大ナルモアリシカ特ニ過般日獨伊三國條約ノ締結ニ當リテハ總統ニ對スル積極的援助並部下ノ指導ヲ始メ國防軍ニ於ケル其地位上ヨリ獨國首腦部ヲ誘掖啓發シ該條約ヲシテ急速成立ニ導キタルモノニシテ其功績著大ナルモノト認ム

外務省

ニ我山下視察團ノ獨國派遣ニ方リ獨國國防軍總司令部長官トシテ
視察團ノ招待ニ參畫シ隸下ノ部員ヲシテ國防軍ノ編制運用作戰
等ニ關シ機祕密ニ亘ル事項ヲモ開陳セシムル如ク指導セルノミ
ナラス國防軍各部（陸軍、空軍）ヲシテ視察團ノ任務達成ヲ容
易ナラシメ以テ帝國陸軍ニ貢獻セル功績顯著ナリ

ニ又我海軍軍事視察團ノ訪獨視察、調査ニ當リテハ克ク其部下ヲ
指導シテ多大ノ便宜ヲ供與シ特ニ作戰上極メテ重要ナル事項ヲ
モ開陳セシムル等視察團ノ任務達成上ニ寄與セル功績亦甚大ナ
ルモノアリ

獨國陸軍參謀總長

勳一等瑞寶章

陸軍上級大將 フランツ・ハルダー

「大將ハ陸軍參謀總長ニシテ陸軍總司令官ニ直屬シ部内ニ於ケル
對外關係事項ハ主トシテ大將ノ統轄下ニ在ル所トス夙ニ帝國ニ
對スル敬愛ノ念深ク從來ノ對外施策上日獨提携ヲ促進シ日獨間
ノ情報交換、駐獨我帝國武官ニ對スル優先的便宜ノ供與等帝國
ニ對シ裨益ヲ與フル所大ナルモノアリシカ就中過般日獨伊三國
條約締結ニ當リテハ其所信ニ基キ積極的ニ陸軍總司令官ヲ援助
スルト共ニ部下ヲ指導シ以テ該條約ヲシテ急速成立ニ導キタル
モノニシテ其功績顯著ナリ

ニ又我山下視察團ノ獨國派遣ニ方リ戰地ニ在ル陸軍部隊及西方戰
場ノ視察ニ便宜ヲ與ヘ更ニ陸軍ノ平戰兩時ニ於ケル編制動員及
作戰ニ關スル事項ヲ機祕密ニ亘ル事項迄開示スルコトヲ許容ス
ル等有ラユル便宜ヲ供與シ視察團ノ任務達成ヲ容易ナラシメ以
テ帝國陸軍ニ寄與セル功績亦甚大ナリ

獨國防軍總司令部防衛局長

勳一等瑞寶章 海軍大將勳二等(瑞)ウイルヘルム、カナリス

大將ハ國防軍總司令部防衛局長ニシテ外國情報及諜報諜略業務ヲ主宰シ總司令部長官ニ直屬セル首腦者中最モ重要ナル地位ニ在リ夙ニ日獨親善ノ強化ヲ圖ル上ニ於テ其最モ熱心ナル主張者ニシテ本務上特ニ諜報及諜略業務ニ關シ緊密ニ我帝國陸海軍ト協同セルノミナラス獨蘇協定成立ニ因リ日獨ノ關係一時冷却ノ感ヲ呈セシ時期ニ在リテモ毫モ主張ヲ變スルコトナク終始一貫克ク日獨提携ノ維持増進ニ努力シ就中過般日獨伊三國條約ノ締結ニ當リテハ從來ノ立張ヲ實現スヘキ機會至レリトナシ關係各方面ニ對シ該條約

裏面白紙

ノ成立促進ニ獻身の努力ヲ致シ其成立ニ貢獻セル者ニシテ功績洵
ニ顯著ナルモノアリト認ム

外務省

昭和 4943

202

獨國空軍參謀總長

勳一等瑞寶章 空軍上級大將 ハンス・エシヨネツク

「大將ハ空軍參謀總長ニシテ空軍總司令官ニ直屬シ空軍部内ニ於ケル對外關係事項ハ主トシテ大將ノ統轄下ニ在ル所トス日獨提携親善ニ關シテハ夙ニ積極的努力ヲ續行シ殊ニ大將ノ隸下ニ屬スル外國武官課カ我出先航空關係者ニ對シ情報ノ提供ヲ始メ各種ノ交渉ニ於テ他ニ見サル好意的態度ヲ示セルハ大將ノ適切ナル指導ニ俟ツモノ多ク我國ニ對シ裨益スル所大ナルモノアリシカ特ニ過般日獨伊三國條約締結ニ當リテハ更ニ積極的ニ「ゲーリング」以下首腦部ヲ援助シ部下ヲ指導シテ該條約ヲシテ急速

めくれず

裏面白紙

成立ニ導キタルモノニシテ其功績甚大ナリ

ニ我山下視察團ノ獨國派遣ニ方リ戰地ニ在ル空軍部隊及西方戰場ノ視察ニ便宜ヲ與ヘ更ニ空軍ノ平戰兩時ニ於ケル編制動員作戰ニ關スル事項ヲ機祕密ニ亘ル事項迄開示スルコトヲ許容スル等有ラユル便宜ヲ供與シ視察團ノ任務達成ヲ容易ナラシメ以テ我帝國軍ニ寄與セル功績顯著ナリ

ニ又我海軍軍事視察團ノ訪獨視察調査ニ當リテハ獨國空軍カ國家ノ興亡ヲ賭シ全力作戰中ニシテ公務極メテ繁激ナルニモ拘ハラス能ク我方ノ要望ヲ容レ積極的ニ好意ト熱意トヲ以テ多大ノ便宜ヲ供與シ視察團ノ任務達成上ニ貢獻セル功績極メテ大ナルモノアリ

外務省

東京 4943

204

獨國空軍航空本部長

勳一等瑞寶章 空軍上級大將ハンス・ユルゲン・シュトゥンプ

大將ハ空軍航空本部長ニシテ空軍總監ニ直屬シ主トシテ空軍ニ於ケル一般航空行政ヲ始メ航空資材並技術ニ關スル事項ヲ總轄シ「ゲーリング」ノ重要ナル補助者タリ夙ニ日獨兩軍ノ親善ニ努力シ我國ニ對スル航空技術ノ導入、航空情報ノ提供等ニ至大ノ便宜ヲ供與シ我國ニ對シ裨益スル所大ナルモノアリシカ過般日獨伊三國條約ノ締結ニ當リテハ其所信ニ基キ積極的ニ「ゲーリング」以下首腦部ヲ援助シ部下ヲ指導シ該條約ヲシテ急速成立ニ導キタルモノニシテ其功績顯著ナリ

裏面白紙

又我海軍軍事視察團ノ訪獨ニ當リテハ航空技術ノ視察調査等ニ關
シ多大ノ便宜ヲ供與シ我視察團ノ任務達成ヲ容易ナラシメタル功
績極メテ大ナルモノアリ

外務省

庫藏 4943

206

獨國海軍軍令部長

勳一等瑞寶章海軍大將フーベルト、マリヤ、オット、シュニーヴィント

「右者夙ニ日獨海軍提携ノ要ヲ説キ終始之カ實現ニ努力シツツアリシカ選ハレテ海軍軍令部長トナルヤ「リーダー」海軍長官ヲ輔ケテ益々之カ促進ニ努メ殊ニ日獨伊三國條約ノ締結ニ關シテハ其海軍ノ見地ヨリ本條約ノ重要性ヲ深ク認識シ最モ積極的且有効的ニ主腦部ヲ輔ケ之カ急速成立上ニ致セル功績極メテ顯著ナルモノアリ

ニ又我海軍軍事視察團ノ訪獨視察、調査ニ當リテハ常ニ「リーダー」元帥ノ意ヲ承ケ或ハ其代理者トシテ各方面ニ亘リ多大ノ便

宜ヲ供與シ特ニ作戰上極メテ重要ナル事項ニ關シテモ進ンテ之
カ内容ヲ提示スル等視察團ノ任務達成ヲ容易ナラシメタル功績
甚大ナルモノアリ

外務省

東亞 4913

208

裏面白紙

秘

儀祕第六三九號

昭和十七年九月二十三日

主任者、儀典課、笠原

外務大臣 谷 正 之

内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

獨國總統幕僚全權公使「ヘーベル」外
十三名敍勳ノ件

獨國總統幕僚全權公使「ワルター、ヘーベル」外十三名敍勳ノ儀
別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度此段申進候也

1. Walter Hevel.
2. Rudolf Jäger.
3. Ernst Lemmer.

外務省

秘

儀祕第六三九號

昭和十七年九月二十三日

外務大臣 谷

正之

内閣總理大臣 東條英機 殿

獨國總統慕僚全權公使「ヘーベル」外
十三名敘勳ノ件

獨國總統慕僚全權公使「ワルター、ヘーベル」外十三名敘勳ノ儀
別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度此段申進候也

1. Walter Hewel.
2. Rudolf Likus.
3. Ernst Lemmer.

外務省

日本標準規格B6

裏面白紙

4. Martin Luther.
5. Adelf Steengracht von Moyland.
6. Erich Kordt.
7. Emil von Rintelen.
8. Berndt Gottfriedsen.
9. Karl Otto Braun.
10. Hans Strack.
11. Hans-Ulrich von Marchtaler.
12. Alois Tichy.
13. Ladislaus von Mirbach-Geldern.
14. Galinsky.

裏面白紙

秘

儀祕第六四〇號

昭和十七年九月二十三日

主任者、儀典課、笠原

外務大臣 谷

正之

内閣總理大臣 東條 英機 殿

獨國空軍總司令官兼航空大臣國家元帥「ゲーリ
ング」外八名敘勳ノ件

獨國空軍總司令官兼航空大臣國家元帥勳一等「ヘルマン、ゲーリ
ング」外八名敘勳ノ儀別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度此段
申進候也

外務省



秘

儀 第六四〇號

昭和十七年九月二十三日

外務大臣 谷

正

内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

獨 國 空 軍 總 司 令 官 兼 航 空 大 臣 國 家 元 帥 「ゲ ー リ
ン グ」 外 八 名 敘 勳 ノ 件

獨 國 空 軍 總 司 令 官 兼 航 空 大 臣 國 家 元 帥 勳 一 等 「ヘ ル マ ン 、 ゲ ー リ
ン グ」 外 八 名 敘 勳 ノ 儀 別 紙 ノ 通 上 奏 致 候 間 可 然 御 取 計 相 成 度 此 段
申 進 候 也

外 務 省

裏 面 白 紙



1. Hermann Goering.
2. Erich Raeder.
3. Walther von Brauhitsch.
4. Wilhelm Keitel.
5. Franz Halder.
6. Wilhelm Canaris.
7. Hans Jeschonnek.
8. Hans Juergen Stumpf.
9. Hubert Maria Otto Schniewind.

裏面白紙